

Title	古版経済書解題 一千八百年版トマス・ロバート・マルサス著 目下の食料高価原因の攻究
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1941
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.35, No.9 (1941. 9) ,p.1151(75)- 1159(83)
JaLC DOI	10.14991/001.19410901-0075
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19410901-0075

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に次いでゐる。固より鹽業は地方治安との關係が密接なのであるから、治安の回復と共に一段の増産が可能となるべく、近年の輸出能力二十五萬噸から昭和二十年度に於ける對日輸出四十五萬噸目標に達することも不可能ではなからうと思はれる。

以上は若干工業の概貌であるが、一般的にみると、支那工業にも質的な變化が起つてゐるのであつて、

(一) 他の諸國に於けると同様に、手工業、家内工業は漸次凋落の傾向にある。殊に一般民衆の生活様式の變化並に大都市住民の歐米化は之を刺戟してゐるのである。

(二) 近代工業が漸次發達の過程を辿りつゝあり、殊に上海の如き、全支工場の約七割を占有する工業都市が成立するに至つてゐる。

(三) 事變以來は日滿兩國と共に東亞共榮圏の中核體として、重要産業の計畫化が進行してゐると同時に、基礎及び原料工業の基地たる性格を強化してゐるのである。

(附記) 本稿は筆者が某所に於いて試みた講義の要綱に據つたものであり、今後の研究によつて詳説を加へたいと考へてゐる。尙ほ本稿は、「日滿支經濟圏と産業開發」、「物資の流動關係」、「通貨及び通貨政策の推移」、「物價及びその騰勢」、「貿易及び日滿支經濟圏」の諸項に及ぶ豫定であつたが、便宜上別稿に於いて取扱ふこととしたことを諒せられたい。

古版經濟書解題

一千八百年版トマス・ロバート・マルサス著

『目下の食料高價原因の攻究』

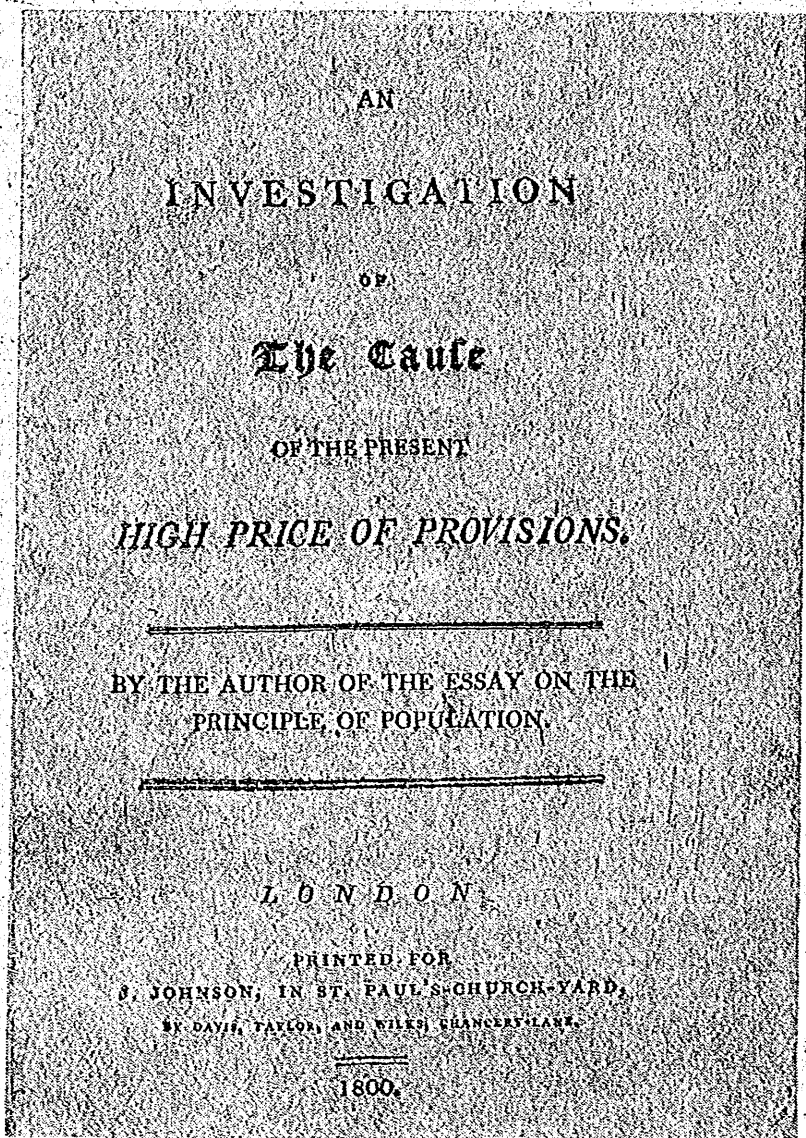
高橋誠一郎

トマス・ロバート・マルサスは、其の名を不朽ならしめた『人口論』の初版が發せられた翌年、即ち一千七百九十九年、其の劍橋大學ジイザス・コレッジ以來の友、ウィリアム・オッター(William Oter)、即ち後のチツチェスタアの監督、旅行家であり且つ考古學者・礦物學者であつたエドワード・ダニエル・クラーク(Edward Daniel Clarke)及びクラークの門下ジエム・クリップス(J. M. Cripps)等と共に、獨逸のハンブルグに渡り、其れより瑞典に赴き、一行は同國最大の湖、ヴェーネルン湖畔のハルビに於いて分離し、マルサスはオッターと共に瑞典を過ぎ、諾威、芬蘭及び露西亞を歴遊して、『人口論』再版の資料たる可きものを蒐集し、同年十一月の初めに一先づ歸國した。(彼れは、一千八百〇二年、アミアンヌの平和條約成つて後、更らに資料蒐集の目的を以つて佛蘭西及び瑞西を訪れたのである)。

マルサスは、北歐の旅から歸つて後、自國に於ける一千七百九十九年並びに一千八百年の食料不足に當面し、食料不足の事實は唯り英國のみに止らないのであるが、而も此の國の價格が他に比して甚しく高價なるに動されて筆を執り、一千八百年、『人口論』初版と同じく、倫敦 聖ポール寺境内のシェ・ジョンソン書店から『目下の食料高價の原因の探究』(An Investigation of the Cause of the present High Price of Provisions.)と題する小冊子を公にした。彼は、本書に其の名を署することなく、唯だ單に「人口原理に關する試論の著者によつて」とのみ記してゐる。此の小冊子はハツ折判二十八頁より成るものである。

本書述作の消息は、マルサスが一千八百一十二年十一月二十八日附を以つて、ウィックハム・マーケットのデューデ・ターナー師 (Rev. George Turner) に宛てた書翰によつて窺知することが出来る。此の書翰はフォックススウェル教授 (H. S. Foxwell) によつて、一千八百九十七年の Economic Journal 誌に掲載せられ (F. 270) 更らにボナー博士 (James Bonar) によつて、其の Mathus and his Work, 1885. 中に引用せられてゐる。(2nd ed., 1924, pp. 418-419.) 是れに據れば、彼は、馬上、倫敦に赴くの途次、當時の食料の高價に關する一つの想念が強く彼れを打つたので、恰度、後に彼れの夫人と爲つたジョン・エカーソール (John Eckersall) の女ハリエット (Harriet) の住むクラヴァートンに近い湯治場のバスに出掛けやうとして居つたのであるが、其の前に倫敦滞在の一兩日中に此の問題に關する二三の考へを書き誌さうと決心したのである。彼れは此の年十一月十一日の火曜日に、特に食料不足問題の爲めに開かれることに爲つて居つた議會の集會前に其の著が公にせられるやうにと、バスに赴く前夜は之れを脱稿するが爲めに二時迄も机に向つて居つた。

二



當時の食料高價の原因として幾多のものが擧示せられて來たのであるが、而も其の主要なるものは未だ發見せられなかつたのであるまいかと云ふ疑念がマルサスには深かつた。彼れを以つて觀れば、昨年中、各種穀物の不足が或る程度まで、存して居つたことは疑ひを容るゝの餘地なき所ではあるが、而も、是れと同時に、其の價格が這般の不足の程度によつて、一見、當然なるの觀があつたよりも以上に高かつたことも亦、承認せられなければならぬ所である。彼れは一千七百九十九年の夏、北歐旅行中、瑞典を過ぎた。當時、此の國を通じて、前年の長い旱魃によつて、穀物の一般的缺乏が存して居つた。諾威に境を接するヴルムランド州に於いては、そは殆んど飢饉に近いものであつて、下層階級の人民は最も忍び難い困苦を嘗めたのである。マルサスの一行が瑞典の此の地方を通つて居つたのは七月の事であつたが、其の頃、此の地方の下層民等は最もひどい二つの代用食に依頼しなければならなかつた。一は縦の内皮かち造つたもので、他は乾かして粉にした普通の酸模すかんぽから製したものである。當時瑞典の此の地方に一般に存して居つた不足の程度が、是れ迄英國で經驗せられた如何なるものに比しても著しく大であつたことは殆んど疑ひの存し得ない所であつたが、而も猶ほ、マルサス等の聞知し得た限りに於いては、麵麩用の主穀、ライ麥の價格は、其の通常の平均の二倍以上に騰ることがなかつたのである。然るに、昨年、此の國に於いては、其の程度に於いて劣ること甚しく大であると認められなければならぬ不足に在つて、小麥は其の従前の價格の三倍以上に騰貴したのである。(Ibid., pp. 2-3.)

是に於いて乎、識者も民衆の一般的絶叫に和して、何處かに曲事が存しなければならぬと做し、而して、一般的憤怒は獨占を爲す者及び買ひ占めを爲す者(Ho monopolizers, forestallers, and regraters)の上に落ちたのである。而して、是れ等の悪名は貨物の培養者と消費者との間に介入するあらゆる種類の商人に無差別に適用せられるのである。

王座裁判所長ケンヤン男(Lloyd Kenyon)及び大陪審官等は、九十九年十一月のレックス對ジョン・ラスビー(Rex v. John Rusby)の訴訟事件に於いて買ひ占めに對する廢法を實施した。マルサスと雖も、固より獨占其の他のもの存し得ることを認めるものではあるが、而も、彼れは、穀物の如く夥しく多數の手中に存する物品に在つては、英國に於いて、有害なる範圍迄獨占の行はれることは不可能であると斷言して不安なきものと信じたのである。(Ibid., p. 14.) 識者の多數は食料の高價を流通紙券の數量に歸した。英蘭銀行の兌換停止に由つて、紙券の發行が其の自然的抑止を有することなきに至つた時、此の國が通貨過多に陥るであらうと懸念す可き大なる理由の存することは疑ひのない所ではあるが、而も、斯くの如きは慥かに正金との比較に於ける銀行券の際立てる下落なくして一定の顯著なる範圍迄起ると云ふが如きことは有り得ざる所であつた。斯くの如き下落は生じなかつたのであるから、害惡の進行は遲緩且つ徐々でなければならなかつた筈であり、又、英蘭銀行の兌換停止に次ぐ適度の廉價の時期の後に昨年あれ程際立つて感ぜられた食料の價格に於ける急激且つ非常の騰貴を生ずるが如きことは斷じて有り得なかつた譯である。(pp. 23-24.)

マルサスの考ふる所に據れば、穀物の價格に準じて教區の給與を増加せんとする此の王國の大多數の地方に於ける企圖は、之れをしてそが這般の企圖に於いて進んだ邊まで進むことを得せしめた此の國の富と結合して、比較的言へば、此の國に於ける食料の價格をして稀少の程度より見て正當なるの觀あるよりも著しく騰貴せしめた唯一の原因たるが如くである。(pp. 45.) 此の國に於ける救貧法及び教區の給與の制度並びに上層及び中層社會階級の仁慈及び寛大は、當然且つ必然に此の國に於ける穀物及び其の他の食料の價格を現時の高さに達せしめたのである。貧民は、彼れ等の賃銀が彼れ等をして麵麩一品に於いて彼れ等の家族を満足せしむることを得ざる可き旨を治安判

事等に愁訴した。判事等は極めて慈悲深く彼れ等の愁訴に耳を傾け、彼れ等が當時の小麥の價格に於いて、其の家族を支持することの出来る最少額が幾許であるかを調査し、而して之れに従つて、其の教區に救済の命令を與へた。斯くて、貧民は、暫くの間は、略々彼れ等の平常の麵粉量を購入することが出来たのであるが、而も、國內に於けるストックは、輸入を見越すも猶ほ、其の人民の總べてに平常の分配を許すに足らなかつた。收穫は餘りに速かに消費せられつゝあつた。市場の開かれる毎に、需要は供給を超過した。而して、是れ等の事項に關して判斷を下すを以つて業務とする者は、一二個月内に、不足は其の當時に於けるよりも大なる可きを確信した。是に於いて乎、力ある者は彼れ等の穀物を保留した。斯くするに於いて、彼れ等は、疑ひもなく、彼れ等自身の利益を念としたのであつた。然しながら、其の意向あつてか如何かは暫く措き、彼れ等が其の國家の眞の利益を企圖したことも亦、疑ひのない所である。即ち、彼れ等にして若し之れを保留しなかつたならば、餘りに多くが消費せられて、年末には單なる不足に止まらないで、飢饉にすら爲つて居つたであらうからである。斯くて、穀物は當然騰貴した。貧民は再び難澁した。新たな愁訴が判事等に致された、而して、更らに以上の救済が與へられた。然しながら、タンタロス(希臘神話中の人物。神話は彼れに關して種々に傳へてゐるが、其の一つに據れば、彼れは主神ゼウスの子として生れ、此の世に於いては富める王であつたが、父ゼウスによつて傳へられた神々の評議の秘密を他に漏したが爲めに、下界に於いて燃えるが如き激しい渴に悩まされ、而して同時に湖の眞中に置かれ、其の水は彼れが之を飲まんとするや否や直ちに退くの常なる刑罰を科せられたと云ふことになつてゐる)の口から水が退くが如くに、穀物は猶ほ貧民の捕捉から遁れ去つたのである。(pp. 9-10.)

商人は非難を受く可きものではなかつた。價格が最高と爲る迄、彼れ等の供給を保留するによつて、彼れ等は其

の最も必要なる際に在荷を提供したのである。概してマルサスによつて最も熱心に非議せられた救貧法制度は、又、彼れによつて、目下の缺乏に際して國家に取つて有利なる作用を爲せるものと思惟せられたのである。是れに由つて生ぜしめられた主たる便益は、恰も、最も烈しい不平の種と爲つた所のものである。あらゆる生活必需品の高價が是れである。マルサスの觀る所を以つてすれば、貧民の更らに著しく多數の者が餓死することのなかつたのは疑ひもなく這般の價格に由るものであつた。昨年は平作の僅かに三分の二しか收穫がなかつたものと計算せられてゐる。恐らく、輸入穀物の總額を加へても猶ほ、五分の一乃至六分の一の不足が依然として存して居つたであらう。此の島國に一千萬の人民が存するものと推定し、事物が其の自然の過程に委せられて居つたとしたならば、這般の不足の全部は殆んど専ら最貧困なる住民の二百萬乃至恐らくは三百萬の上に歸し、其の著しく多數の者は是れが爲めに餓死しなければならなかつた筈である。教區給與の作用は、食料の價格を斯くの如く騰貴せしむるに由て、困苦をして、恐らくは、二三百萬人の代りに五六百萬人の間に分割せられしめ、而して、必然人口の自餘の部分によつてすら感ぜられざることなからしめたのである。加之、食料の高價は更らに又、總べての階級の生活に於いて峻嚴なる經濟を勵行し、非常の輸入を奨勵し、而して、自利の有力なる動機によつて、農民を鼓舞して、翌年は出來得る限り大なる收穫を擧げんとするあらゆる努力を行はしむるの効果があつたのである。(pp. 19-20.)

當時の輿論は小農場に味方して、仲介業者を攻撃した。而も、マルサスに従へば、仲介業者の撲滅は、必然、之れと共に小農民の破滅を惹起す可きである。小農民は、彼れをして其の地代を支拂ひ、又、其の作男に支拂ふを得せしむるが爲めに、其の乏しい資本の急速なる回收を必要とし、斯くて又、收穫後、殆んど即時に其の穀物を賣りに出さなければならぬ。彼れにして若し農民の任務と等しく穀物商人の其れをも亦、遂行し、而して、其の供給を

市場の需要に對して調節するの任に當らなければならぬとしたならば、二倍の資本は絶対に彼れに取つて必要なる可く、而して、之れを有せざるが爲めに、彼れは破滅せしめらる可きである。(pp. 22-23)。

而して、マルサスは、最後に、英國は二十年以前に於いては絶えず甚だ大なる高まで穀物を輸出するの習ひであつたが、近年は、豊年に於いてすら、自國の消費に取つて充分なる穀物を生ずることなきに至つた事實を以つて今や一般に承認せられた所であると做し、而して、此の時期に於いて、英國の農業は進歩こそすれ、退歩せるものとは到底想像すること能はずと説き、斯くて彼れは、現在に於いて此の國が其の住民を支持し得ざるの理由を人口の増加に歸せんとしたのである。彼れは附言して曰く、「余は余が我れ等の收穫に於けるあらゆる不足の上に及ぼす軌近の峻烈なる窮厄の壓迫を以つて、『人口原理に關する試論、それが社會將來の改善に及ぼす影響』と題せられて、約二年以前に出版せられた一試論中に説明せんことを努めた一原理の頗る力強い例證として考察せざるを得ないことを告白する。そは、之れを閱讀せる多數によつて、現在の社會状態に適用し得ざる見掛倒しの主張に過ぎざるものと考へられた。蓋し、そは是れ等の諸主題に關する若干の先入の意見と矛盾せるが爲めである。然しながら、二個年の省察は、余をして、此の著中に於いて唱道せられた原理の眞なること、並びに、そが下層社會階級の永續せる窮迫及び貧困、彼れ等を救済するの目的を以つて彼れ等の爲めに設けられたあらゆる現在の諸施設の全然不適當であること、及び吾人が最近に經驗せるが如き凶年の週期的復歸の眞因たることを確信せしめるに資する所が強大であつた」と。(pp. 26-27)。

而して、此の試論は、現在、一個年以上も絶版と爲つて居るのであるが、彼れは「此の原理を社會の現状に直接且つ専ら適用し、又、吾人が他の諸國の状態に就いて有する最も確實なる記述に徴して其の作用の力と普遍性とを解明するに努めることによつて、之れをして、一層一般の注意に値するものたらしむるの希望によ

つて、其の第二版を出すことを延期した」と述べてゐる。(p. 28)。

三

本解題中に挿入する所のものは、此の小冊子の表表紙であつて、裏表紙には、同一の問題を取り扱つたジョージ・エドワーズ(George Edwards)の新刊小冊子 *Effectual Means of providing against the Distress apprehended from the Scarcity and High Prices of Different Articles of Food* の廣告が載つてゐる。エドワーズは醫學博士の學位を有する開業醫であつたが、社會問題及び財政問題に興味を有し、第十九世紀初期の英國を惱まして居つた諸般の問題に對して種々なる救済策を提唱した。

マルサスは曩きに引用したターナー師宛ての書翰に於いて、彼れが遠しく其の筆を馳せた此の『攻究』が幾分世の注意を惹ける旨を記し、彼れの一友人は之れを時の藏相に送り、藏相は是れを以つて此の問題に關して是れ迄に現れた最良のものと稱して、直ちに之れを首相ビットに送つたことを報じてゐる。彼れはビットの本書に就いての意見を知ることを得なかつたが、而も、果して此の書に依據したか如何かは明かでないが、恰も公にせられたばかりの下院委員會の第一回報告中には、同一種の推理の多くが採用せられてゐることを認む可きであると述べてゐる。彼れは、尙ほ、例の諸論を弄して、「私が若し暴徒によつて水浸しにされるならば、私は獨占を行ふ者や買ひ占めを爲す者が、私に乾いた着物を呉れることを期待する」と書き加へてゐる。

『人口論』再版の現れたのは、是れより三年の後、即ち一千八百〇三年であつた。